



照屋 仁士 議員

行政懇談会の 在り方を見直せ

答 反省を踏まえ、今後改めるべきは
改めていきたい

問 神里区で行われた行政懇談会は進行が乱暴だった。回答は非常に厳しい内容もあり、感情的になった区民の方々もいた。本来なら回答に至った経緯や議論経過を、先に説明をすべきではなかったか。

総務部長 以前からのやり方で行った。改めていきたい。

問 責任ある回答が行政懇談会の意義を高める。担当者、課長、部長、もちろん町長へも確認の上で回答されているか。

総務部長 手順として関係部署へ割り振りを行っている。地域と確認を取って答弁を書き、三役に確認し回答している。

問 持ち帰るべき検討事項は今後どう表すか。自治会に寄り添った回答の仕方も今後検討としてはどうか。

総務部長 時と共に行政の形も地域の要望も変わっていく。対応すべきは柔軟に対応していく。



神里での行政懇談会の様子

学校現場の課題解決を

問 教職員が多忙と言われる。出勤管理について、実態を掴むためにもタイムカードの導入が必要ではないか。

教育長 国の中央教育審議会等で議論されている。国・県などの動向を注視し検討する。

問 答えが非常に大きい。なぜすぐできないかとも疑問である。お金もかからないし、八重瀬町がすでにタイムカードを導入している。何かできない理由があるのか。

教育部長 改善をしていきたい。

問 WEB学力テストは学力向上に繋がっているかも知れないが現場の先生が採点や、手入力するためかなりの負担になる。先生方の負担を減らし質の高い授業をやらせよう方が学力向上に繋がると思う。負担軽減を考え、WEB学力テスト実施主体(県・委託先)に改善を求めるときではないか。

教育部長 県教育委員会へ改善を求めている。

こんな質問もしました

- 電子黒板の活用と調査研究は。
- 教職員の多忙化をどう解決しているか。